

『真実の愛にふれるとき』 ルカの福音書19章1～10節 2016.10.30(山崎徹也牧師伝道礼拝説教より)

『きょう、救いがこの家に来ました。…人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。』 ルカの福音書19章9～10節

❶ 私たちは迷子…ザアカイは「取税人のかしらで金持ち」…能力高く成功も収めていたが「背が低かった(3節)」とある。いじめや悔しさの反動か、その名の意味(聖い)とは裏腹に、ずる賢く、腹黒い人生となっていた。本来全ての人は、神の愛の中で、聖く明るくのびのびと、自分らしく生きるように創られている。しかし『私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分勝手な道に向かって行った(イザヤ 53:6)』。能力を生かし、自分なりに頑張っているのに、どこか孤独で、欲にも負けて抜けられない迷える羊の私たち。そこへ天から羊飼いが降りて来られた！

❷ 天から降りてきた羊飼い…可愛がっていた羊が檻から離れ、迷い出て帰らない…羊飼いはじっとしておれず捜しに出て「見つけるまで捜し続ける(ルカ 15:4)」という。この、天から降って来られたイエス様は、ザアカイをどこで知ったのか？元・取税人の弟子マタイから聞いていたのかも。その出会いはドラマチック！まずザアカイ自身が、噂に聞くイエスに興味津々で表通りへ…しかし背が低く群衆に邪魔され木に登り、そこで自分の名を呼ばれた！『わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの…わたしの目にあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している(イザヤ 43:1,4)』。神に個人的に、愛を込めて、迷子の私たちの名を呼ばれる。一方的な「押しかけ愛」？イエス様はザアカイの家に泊まり、その人生の寂しさ、悔しさ、心の全ての傷を包んで癒された。その夜、ザアカイの心は大きく変わった！

❸ 癒され変えられて…彼は立ち上がりて決意表明！『主よ…私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します(8節)』。だまし取る楽しみが、罪を償う喜びへ。かき集める人生が、分け与える人生へと、大きく変えていただいた！イエス様は大喜びで叫ばれた！『きょう、救いがこの家に来ました。…わたしは迷子を捜して救うために来たのです』と。

★今日、あなたも祈りませんか？『主イエス様、私も迷子の羊です。私を捜してこの世まで来てくださり感謝いたします。私の人生の哀しみ、悔しさ、傷の全てを御存知のあなたに心を開きます。どうぞ一生の間、私の導き手、救い主となってください』と！